

令和5年(2023年)5月19日
八王子市社会福祉審議会
高齢者福祉専門分科会
高齢者いきいき課

持続可能な介護予防に向けた プラットフォーム構築プロジェクト

～てくぽで拓く 新・ウェルネス社会～

八王子市の概要

人口

579,355人 (都内市町村で1位)

※ R2国勢調査

面積

186.38km² (都内2位)

高齢化率

27.6% (都23.5% 国29.1%)

※R4.12月末住基人口

はじめに

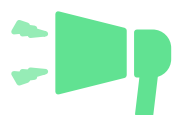
～ 八王子市が考える、これからの介護予防 ～

従来型介護予防の限界



ボランティア手帳

マンパワー



普及啓発

コスト



通いの場支援

無関心層



体操・講座

効果検証

コロナ

15万人のうち何人を元気にできたんだろう・・・

結局

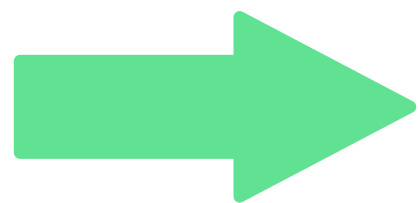
介護予防の主役は高齢者自身

我々が果たすべき役割は

セルフマネジメントの支援

セルフマネジメント定着のために

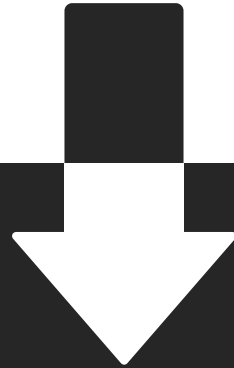
- 健康無関心層も含めた15万人の高齢者が
無理なく・楽しく・いつまでも 健康を守れるような
習慣づくりを後押ししたい
- これを限られた財源・人員で実現するには、
労力・コストが対象者数に比例しない仕組みが必要



必然的にICTの活用検討へ

持続・発展する事業へ

- 既存のツールだと、労力はともかく
コストが対象者数に比例してしまう



スケールメリットを活かして
必要なコストを「稼ぐ」ことはできないか・・・。

リバーズピッチからの実証実験へ

そんな時に見つけたのが、
関東経産局主催の「ガバメントピッチ」

【2020.10】 全国のヘルスケアベンチャーに
ビジョンと課題を提示

【2020.12】 28社の提案から、
パートナーとして(株)バスプラを選定



【2021.05】 共同研究として実証スタート

事業概要

～楽しく・お得に 介護予防～

「てくポ ～八王子てくてくポイント～」

脳にいいアプリ

by (b_p)
ベスブラ

- 歩く
- 食べる
- 脳トレする

→ 「スター」がもらえる 無料アプリ

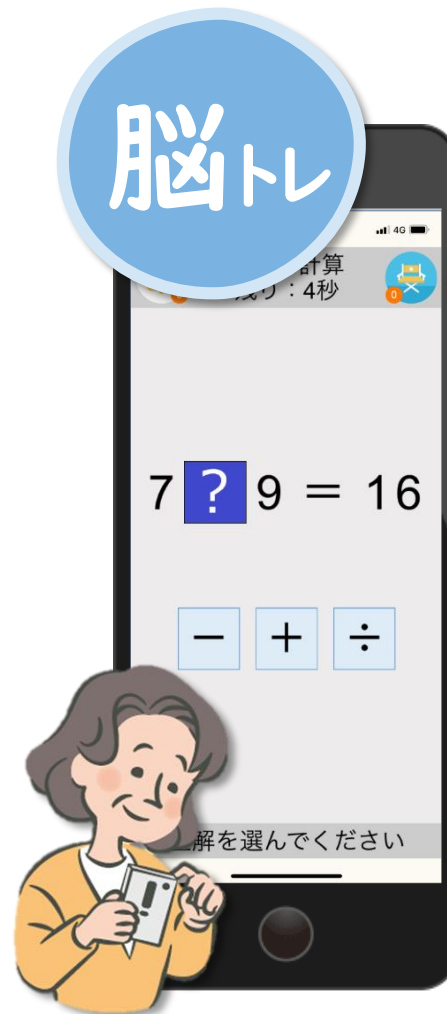
← 地域電子ポイント

- アプリのミッションクリアで貯まる
- イベント・ボランティア参加で貯まる

てくポ[♡]

運動・栄養・社会参加を
楽しく・お得に促すポイント制度

ポイントを貯める



ポイントを **使** う

1,000ポイント



市内のてくポ利用店舗で
1,000円分の買い物



or

PayPayポイント
700円分に交換



R3実証で得られたデータ

- 平均歩数: **5,247**歩 ← A市1,065歩
- 平均脳トレ回数: **3.62**回 ← A市0.5回
- 食事アクティブ率: **73**% ← A市10%

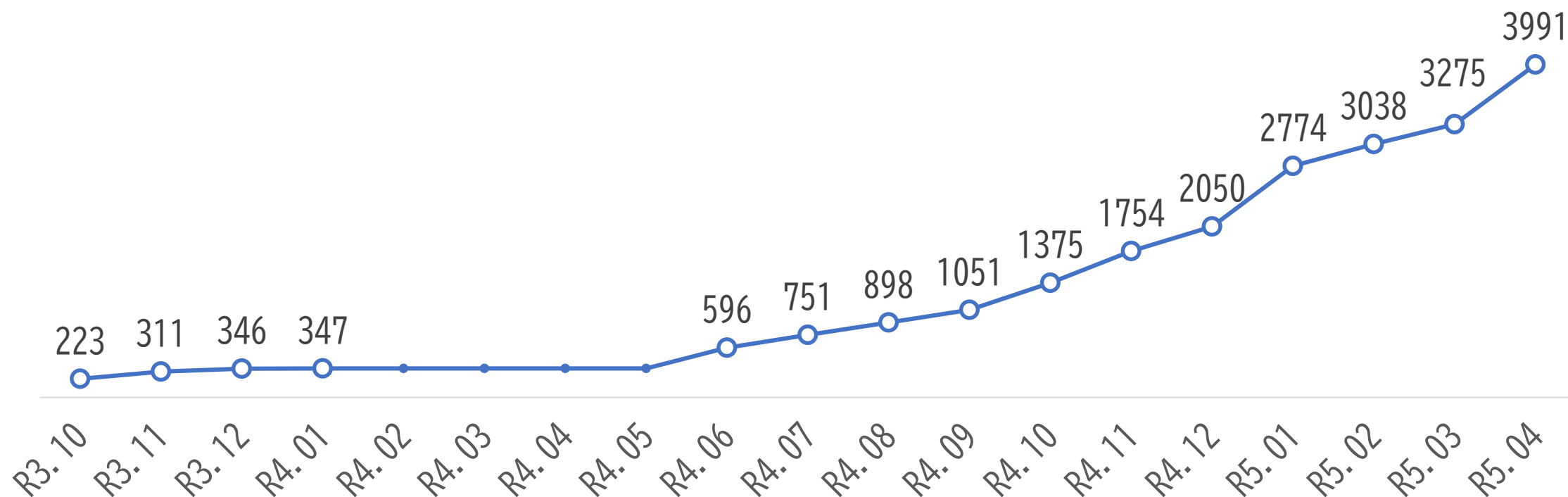
歩数による医療費削減を単純計算すると・・・

合計 **約900万円**

(1歩0.061円×100日間として概算)

登録者数の推移

累計登録者(各月末時点)

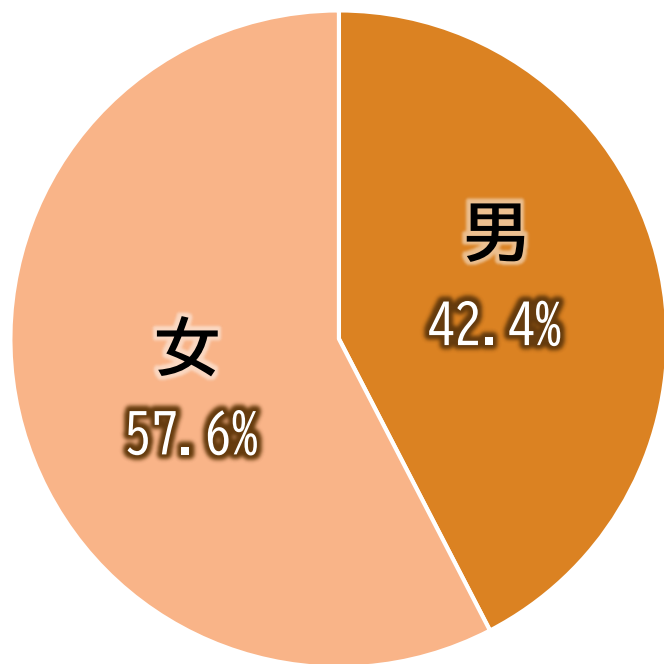


2023年4月末日現在 登録者3,991名

※ 2023年度から対象年齢を「65歳以上⇒60歳以上」に変更

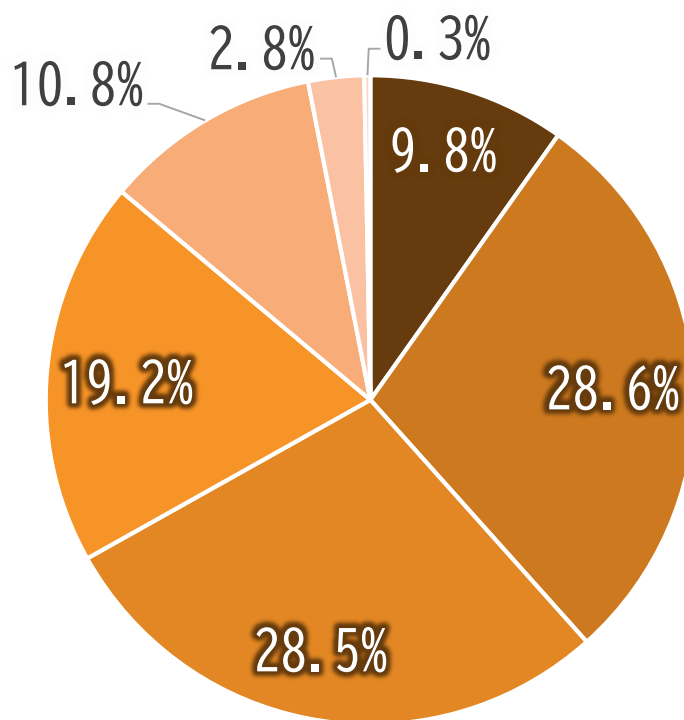
登録者の内訳

性別



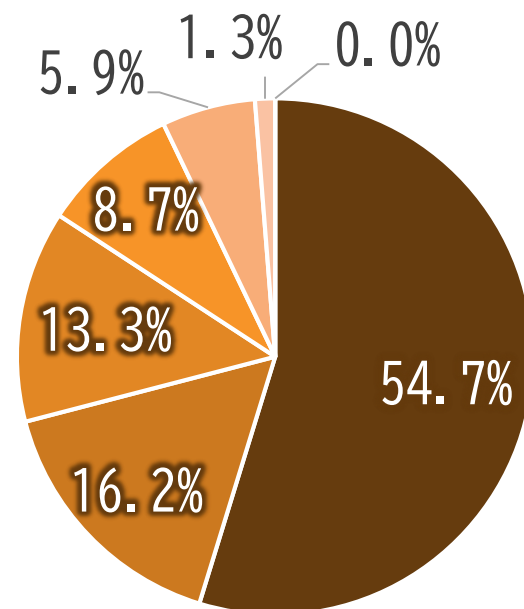
※ 性別のみ3月末時点の集計

年齢



■ 60～64 ■ 65～69 ■ 70～74 ■ 75～79
■ 80～84 ■ 85～89 ■ 90～

年齢(今年度)



見えてきた課題と改善策

利用者間のネットワークや助け合い
相談できる身近な場所
インターフェース改善

ユーザー支援

企業連携の基盤構築
ユーザー規模拡大(参画メリット)
ジョブマッチング等の手法開拓

ポイント原資獲得

PR・登録支援

普及促進のパートナー
口コミ促進
ボランティア・委託などの活用

ポイント利用方法

ユーザー規模拡大(参画メリット)
オペレーション改善？
既存ポイント制度への相乗り

今後の展望

～ 3プロジェクト連動で持続・発展し続ける仕組みへ ～

I.ウェルネスプラットフォーム

てくポユーザー

対象：市内在住の60歳以上

健康習慣 ↓ ↑ ポイント付与

サービス・イベント等紹介 ↑ ↓ サービス利用
イベント等参加

毎日の健康習慣でポイント獲得

歩数 食事 脳トレ



イベントや
ボランティア



データ
活用
⇔
運営費用

様々な企業が健康づくりを手助け

イベント
講座など



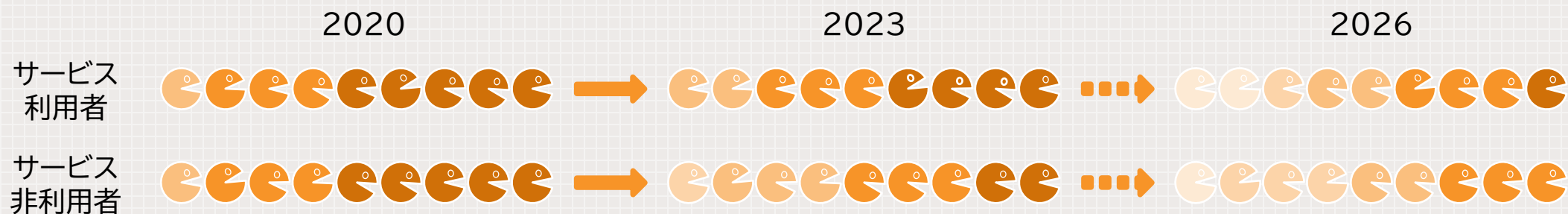
商品・サービス

Ⅱ.EBPMプラットフォーム

EBPM(根拠に基づく政策形成)の基盤づくり

てくぽや各種市場サービスのデータ、医療・介護データを連携させ、
AIを用いて事業効果の評価・推計を実施

活用イメージ



各種データを連携させ、同じような2群を抽出し、変化を比較。さらに、ビッグデータ分析から将来の変化や医療・介護コストを推計

EBPMプラットフォームで目指すもの

根拠をもって、効果的な市場サービス活用を促進

一人ひとりのデータを基に要介護リスク等を予測し、
その人に効果が見込めるサービスを提案

事業の費用対効果を高い精度で評価・推計

例えば・・・

放置したら100万円の医療・介護コストがかかると見込まれる方について、
1年間の介入で将来の予想コストがどれだけ下がったかを早い段階で推計
→ 成果連動型の委託料支払い

Ⅲ.ジョブ・ボラマッチング実証

個人に合わせた「活躍」の場を提案

本人の興味や能力、ライフスタイルに合わせて
仕事やボランティアなど、役割のある活動をマッチング
これまで難しかった単発・短時間の活動も含め、
マッチングを大量かつ迅速に行える仕組みを探る。

→ 生きがい・介護予防＋地域・経済の活性化へ

令和5・6年度でICTによるマッチングの課題を検証し、
7年度以降の実装を目指す。

3プロジェクトの展望

	ウェルネス	EBPM	ジョブ・ボラ
R5	6月以降、企業との連携企画をスタートイベントへのポイント付与や店舗での脳トレ対戦、GPSと連動したウォークラリー的イベントなどを実証。	介護医療データやアプリデータを安全に連携するため、制度・システムの要件を整理。てくポによる医療・介護費抑制効果を試算。認知症リスク者の自覚促進事業を実証。	てくポユーザーや高齢者へのアンケート、試験的なマッチングイベントを通じて、高齢者と受け入れ側それぞれの問題を抽出。
R6	前年度の結果を基に拡大実証 原資獲得手段の多様化に向けて、マーケティングリサーチ協力や庁内のイベント周知などの検証を進める。	連携・分析基盤をシステムとして実装。 てくポや他の事業・市場サービスについて効果検証(or検証方法を検討)。 成果連動型委託実施に向けた準備	昨年度成果を基に、ICTでマッチングを行う場合の壁を具体化し、システム化する場合の入力項目等を検討する。
R7	前年度までに、市がポイント原資等を負担しない仕組みを確立している想定。 EBPMのためのシステムを実装し、各種サービス活用効果を検証		前年度までの成果から、てくポと連動した形でジョブ・ボラマッチングを試行的に実装。 運用する上での具体的な課題を探る。
	新・ウェルネス社会		

てくポで拓く 新・ウェルネス社会

高齢者は・・・

- 自分のお金で、楽しく・効果的に健康づくり
- 健康づくりと楽しみを兼ねて、地域を支えたり、お金を稼いだり

自治体は・・・

- 高齢者の自主的な活動・健康づくりを支える基盤づくり
- 高齢者が自分でお金を出せない（出さない）領域をカバー

これにより、高齢化による負のインパクト

（介護人材不足、財政危機、地域の担い手減少、経済の衰退等）を転換

→ 全国・世界に輸出可能なモデルへ